

# HUMAN RIGHTS

人権・同和教育だより  
第 4 号  
平成27年12月18日



\*「HUMAN RIGHTS」(ヒューマン ライツ)とは「人権」という意味です。

## 1 平成27年度 後期人権委員です。～よろしくお願いします～

	1組	2組	3組	4組
1年	田名後 友 難皮江 彩花	余呉 颯麻 宮武 美伶	高橋 昌也 星加 留奈	野村 綾奈 真鍋 涼々
2年	國田 勝仁 坂東 詩奈	田村 優弥 斎藤 智香	永田 悠馬 平塚 茉由	池田 愛 宮地 梨奈
3年	大濱 魁斗 石水 結菜	桂 太希 榎 結菜	矢野 颯人 藤原 莉子	江藤 楓 村上 あゆみ

## 2 地区別人権・同和教育協議会でのホームルーム活動の様子

「全ての住民が、同和教育をはじめとする様々な人権問題の解決を地域課題として受け止め、地域ぐるみの人権・同和教育を推進していくためにどのように取り組んでいくか」という研究主題の下で、東予地区の人権・同和教育研究協議会が10月27日(土曜日)に実施されました。本校は高等学校教育分科会の会場となり、午前中1時間、全クラスで人権・同和教育のホームルーム活動を実施しました。以下にその様子を紹介します。

### ① 1年生

「自分のまわりに目を向けよう」を主題として、身近な人権問題について学習を行いました。取り扱った人権問題はクラスによって違いました。



## 《生徒感想》

- 今回のホームルーム活動を通して、人権に対する意識が高まったり、ホームルーム活動の以前と以後で考え方が変わったと思います。また、ノーライゼーションの大切さについて学ぶことができたと思います。
- ホームルーム活動を通して学んだことはたくさんありますが、私が特に印象に残っていることは、犯罪を犯した人の社会復帰についてでした。刑を終えて出所した後、根強い偏見や差別により彼らの社会復帰が妨げられているのは、人権侵害になると学びました。
- 人権委員になったことで、他の人たちに比べて人権問題について詳しく勉強できたり、体験できました。今回のホームルーム活動では、クラスのみならず真剣に考えるようにして参加しました。
- 普段あまり考えることができない「人権問題」について考えることができました。また、知らなかったことがたくさん出てきました。まずホームルーム活動の50分間を大切に、より多く人と自分の考えを話し合いたいと思いました。

## ② 2年生

全クラスで「人権の歴史Ⅱ～水平の旗ひるがえる（地或題材に学ぶ）～という題での学習を行いました。



## 《生徒感想》

- 私たちのクラスは、林田哲雄さんについて詳しく学びました。水平社運動を小学校や中学校で学んだ時は身近には感じられませんでした。ここ小松町でも水平社運動に関わった人がいたことを知ることができました。私たちのクラスは参拝授業だったため緊張した雰囲気でしたが、一人一人が必死になって学んでいたのも、とてもいいホームルーム活動になりました。
- 私が、ホームルーム活動を通して学んだことは、差別に負けないで、自発的に行動した人々のことを忘れてはいけないということです。そしてその人を見習って、自分も行動をすることから始めることが大切だと感じました。
- 人権委員として誰よりもまじめにそして真剣に取り組みました。特に、他人事と考えず自分のこととして捉え話し合いました。
- 今回だけでなく、今後のホームルーム活動にもつながってほしいです。クラスのみんなが真剣に取り組んでいたことや、いろいろな発表があったことが良かったと思いました。
- 一人の人間として、その立場になるとどんな気持ちになるのかということを感じながらホームルーム活動に参加しました。荊冠眞に色を塗るという場面では、それぞれの思いが詰まっていた、人権についてみんなが考えてくれていると思うと、人権委員としても嬉しくなりました。

### ③ 3年生

「幸福な結婚のために」という題で、各クラスとも結婚差別の克服についての学習を行いました。それぞれのクラスでは生徒や先生方がさまざまな役になって、実際に結婚差別に直面した時に、どのように行動したらよいのかなど実践的な力を身に付けようという目的でホームルーム活動を行いました。



#### 《生徒感想》

- ロールプレイのお父さん役として発表をしましたが、クラス全員と一緒に考え、活発に意見交換できていた点がよかったと思います。今日の授業を受けて、結婚差別について、自分は差別をなくしていけるような人物になりたいと思いました。
- 司会を担当しました。人権委員として人権のことについて、みんなに分かるように説明をすることは難しいことだと感じました。分かりやすい説明をするには、しっかりした事前準備が必要で、本番の声の大きさも大事だということも感じました。
- 人権委員として、みんなの意見を板書しました。クラスみんなもしっかりと取り組み、自分の意見を発表していました。私たちは、差別についてしっかり学んできました。もし、まだ差別をする人がいたら、正しいことを伝えて自分の周りから差別意識を持っている人を減らしたいです。
- 保護者にしてもらったアンケートからは、親の想いがとても強く伝わってきました。今回の結婚差別について考えるホームルーム活動で、結婚という言葉は簡単に使うけれど、深く考えることで、人にはそれぞれ結婚に対する考えがあることも分かりました。今日学んだことを将来に生かしたいです。
- しっかりと正しい知識を身に付けようという気持ちでホームルーム活動に参加しました。さまざまな偏見や差別がまだ残っていますが、まず、差別をする人の意識を変えることが大切だと思いました。そのための人権・同和教育だと感じました。

# 島田 満人先生にインタビュー

by 3年4組人権委員



## Q1 なぜ、先生になりたかったのですか。

実は友人に誘われたからです。どうしても先生になりたかったのは、友人の方だったのですが、結局採用試験に受かったのは私の方だったということです。ただ、先生になったことを後悔はしていません。

## Q2 様々な人権問題の中で、先生がいちばん関心があるものは何ですか。

部落差別問題です。理由もなく差別をされることが、いかに人を傷つけるかを分かってほしいと思います。

## Q3 「いじめ」についてどう思われますか。

人が人を傷つけることは決して許されないとします。

## Q4 人権に関する、おすすめの本や、映画、歌がありましたら教えてください。

「幸福の黄色いハンカチ」です。相手の気持ちを大切にすればらし映画だと思います。

### 「幸福の黄色いハンカチ」について

- 1977年（昭和52年）に公開された日本映画で監督は山田洋次です。
- 出演者は高倉健、倍賞千恵子、武田鉄矢、桃井かおりなどです。
- あらすじ～Yahoo映画より引用～



新車を買って、あこがれの北海道をドライブする欽也（武田鉄矢）は、一人旅の朱美（桃井かおり）をナンパして二人で旅を続ける。途中、出所したばかりの中年男の勇作（高倉健）と知り合い、3人は旅を共にすることに。やがて勇作は、「自分を待っていてくれるなら、家の前に黄色いハンカチを掲げておいてくれ」と妻に手紙を書いたことを打ち明ける。

- 映画自体は40年近く前で、出演している高倉健さんは、昨年に亡くなりました。日本映画を代表する作品として、大変よく知られた映画作品だと思います。今後もリメイクされたりテレビで放映され続ける作品でないかと思います。

## Q5 人権教育に関わる中で、特に印象に残っている出来事を教えてください。

愛媛県内に限らず、たくさんの先生方から指導してもらったことすべてが印象に残っています。

## Q6 小松高校生に対して何かメッセージをお願いします。

「いじめ」をつけて学校生活も家庭生活も送ってほしいと思います。そうすることで、今何をしなければならぬか、何をすればいいかが明確になると思います。

\*\*\*\*\*<インタビューを終えて>\*\*\*\*\*

急をお願いしたインタビューでしたが、学期末の忙しい中、島田先生は紙面にして、丁寧に答えていただきました。島田先生ありがとうございました。